

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど  
(令和3年度第IV期実務実習)

【北海道地区】

特になし

【東北地区】

<青森県：病院>

- ・実習期間中に学生のコロナワクチン3回目接種があり、翌日より副反応（38℃台の発熱）により2日間欠席となった。第IV期に限らず、今年度の実習を通して、多くの学生が実習期間とコロナワクチン接種のタイミングが重なり、ほぼすべての学生が副反応による欠席のため、実習スケジュールを調整する必要があった。
- ・一般的な感染対策を講じて実習を行ったということ以外、特にありません。

<岩手県：病院>

●施設 A

- ・感染対策上、学生が ICT ラウンドに同行出来なかった。NST ラウンドと褥瘡ラウンドは感染対策を実施した上で同行した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、2月4日午後に実習が中断となった。2月7日は予定していた病棟での実習を変更し、zoom を用いた実習を行った。
- ・2/9 の実習成果発表会は薬剤部員参加の上で、学生全員が同時にポスター形式で発表を行う予定であったが、感染対策のため、学生1人ずつがスライドを投影し発表を行い、指定された部員のみが参加する形へ変更した。
- ・学内でコロナウイルスワクチン接種の機会があったため、接種を希望する学生にはその予定日を確認した。また、接種予定日に該当する実習生について、実習担当者との実習内容の調整や、接種後に体調不良となった場合の対処方法の確認を行った。

●施設 B

- ・病院における感染対策の状況変化に伴い、学生の実習を個別化したり休憩では密にならないように工夫したりして対応した。
- ・実習期間中にワクチン接種（3回目）も経験し、学生の感染対策に対する意識が高まった。

●施設 C

- ・学生も当院の規定内での私生活を送ってもらい特に問題ありませんでした。年末年始なども感染に留意した生活に協力いただきました。

●施設 D

- ・コロナ患者入院等により病棟での実習が制限される可能性があったため、早期から病棟活動に係るカリキュラムを優先的に実施した。
- ・医療従事者と同様に3回目のコロナワクチン接種を検討したが、行政に係る問題があり、実施出来なかった。

●施設 E

- ・コロナ罹患後の学生で体調が優れない日が多かったが体調を確認しつつ、実習を行った。
- ・課題などの座学を多く行った。
- ・患者さんへの直接指導を避け、模擬形式で服薬指導を行った。
- ・地域におけるチーム医療の項目で近隣病院の見学を予定していたが実施できず説明のみにとどまった。

#### ●施設 F

- ・3回目のワクチン接種について、病院側から迅速な対応を求められ、当院で接種を行った。

#### ●施設 G

- ・新型コロナワクチン接種はすべて当院で手配した。

#### <宮城県：病院>

- ・薬局実習の段階で健康上の問題や実習態度に関して何か懸念する点があれば、事前に情報共有してほしい（大学からでも薬局からでも構わないので）。ゼロックスシステムでみることができる情報が限られており、実習が始まってからの対応になると、指導が困難な場合があり実習自体の支障となりうる。
- ・コロナ禍のため仕方がないが、大学からの来院もなく、短時間の電話対応だけでは大学側とのコミュニケーションは十分とは言えなかった。また、薬局との連携は特になかった。
- ・コロナ禍なのでしかたないが、メールのみではなくこまめな連絡がほしい
- ・学生への事前連絡方法が統一されている方がよいと思います。連絡時期や連絡形式等。
- ・報告を紙面上だけで済ませるのが難しい場合もある。特に今年度の実習では問題になる学生が多かったにもかかわらず、現場と大学側との温度差を感じる（通常であれば、担当教員が心配で駆けつける事例もあった。コロナ禍・大学の方針とは言え、感染対策を万全にして学生に直接会いに来るべきだと思う）。
- ・大学職員と実習状況をしっかり共有するためにも直接話せる環境が必要、ZOOM や Teams のようなリモートでの面談を出来るように環境整備をお願いしたい。
- ・病院実習は臨床での実習が重要なので、コロナ感染の拡大で実習が中断することも考慮し、通常よりも前倒しで病棟に上げている。
- ・COVID 患者が入院している病棟では実習しないよう配慮している。
- ・昼食（休憩）エリアを別に設け、黙食を徹底。
- ・課題をメールで送り、返信してもらった。
- ・院内規定に準じて実施
- ・実習期間中の県外などへの移動自粛を学生にお願いしました。
- ・病院での感染対策を徹底し、通常通りの実習を実施した。
- ・学生の健康観察（毎日の体温測定）
- ・ゴーグルの着用
- ・食事時の会話禁止
- ・実習生を2グループに分け、対面と遠隔とを交互に実施し、密な状況を極力避けつつ、対面での実習を継続いたしました。
- ・昼休みの場所（研修室で黙食）
- ・集団での講義はなるべく控える。

- ・実習期間のおよそ半分を病棟実習が占めているが、院内の感染状況によっては病棟にあげられない可能性も十分にある。
- ・院内他部署への見学、診察同行等はコロナ禍以降、中止している。
- ・県内の感染状況悪化に伴い、院内感染対策レベルが上昇したため通常通りの実習継続が一時困難となりました。
- ・薬学生ではないが、実習中の学生が陽性診断となり、関わった院内スタッフに影響を及ぼした事例あり。実習に臨む学生さん達への、感染対策に関しては念入りに教育して頂きたい。
- ・施設内実習の中止などの判断は受け入れ施設が行うケースが多いのかと思いますが、その場合、例えばリモート実習などで対応する場合の準備を各施設で行うのは負担が大きいと感じます（実施期間や中止決定時期にもよりますが）。そうなった場合の実習で使用する教材などが予め準備してあると安心です。
- ・発熱による欠席等の際、院内のルールに則り解熱後 48 時間は自宅待機とさせる等の対応のため、通常時に比べ欠席となる日数が増加しておりました。
- ・今回、コロナ禍において、当院の方針の下、急遽 9～11 週がリモート実習となりましたのでご報告いたします。急な変更で学生達には申し訳なかったのですが、8 週までは院内で実習しており、病院のイメージがある程度ついた状態で遠隔実習に入れたのはまだ良かったと思っています。

#### <福島県：病院>

##### ●A 病院

- ・コロナワクチンのミキシング、コロナに使用する薬剤の学習ができた点。
- ・感染対策の学習も兼ねて、体験できたこと。（工夫した点）
- ・大学の施設訪問がなかったため、大学側とのつながりがなかったように思う。（問題点）

##### ●B 病院

- ・第 4 期の実習生 1 名が新型コロナの濃厚接触者になった。学生は 12 日間自宅待機となった。近くにいた一部の薬剤師 3 名と一緒に実習していた他大学の学生 1 名が PCR 検査を実施。それ以降、院内感染等の拡大には至らなかった。学生が感染対策に配慮して行動していれば、避けることが出来た可能性があった。病院では、日頃から感染対策について声かけをおこなっていた。休んでいる期間は、オンラインで課題をメールして日誌に回答の形式をとった。

##### ●C 病院

- ・新型コロナ感染症のワクチン接種を受けた学生と、受けていない学生が同時に実習に来た。抵抗力の下がった患者さんが多いため、ワクチン未接種の学生を病棟には連れて行きにくく、未接種の学生には実習中にワクチン接種を受けてもらった。新型コロナ感染症に限らず、ワクチン接種に関して確かに強制はできないが、特別理由がなく未接種の場合は、実習が制限される可能性について、大学側からしっかり学生に伝えてほしい。ワクチン未接種の学生については、例え病院側が実習を許可しても、患者さんに拒否される可能性がある。学生にもよく考えて判断してもらえるように、配慮してほしい。

##### ●D 病院

- ・実習生が体調不良時の対応（PCR 検査）、結果待ち状態で出勤ができないとき
- ・院内のコロナ陽性者が発生したときの実習中の対応が難しかった。病棟業務が実習できないなどの問題があり。今回は、自習・課題をメインで対応とした。

## ●E 病院

- ・病棟での服薬指導がコロナ患者の増加によってあまりできなかった。

### <A 大学>

- ・コロナ禍ということで、教員の施設訪問を実施せず、施設と大学の双方で予め決めた方法で連絡をおこなった。多くは電話もしくはメール（WEB ツール含む）であった。最低限の連絡や情報共有は出来たと考えるが、今後の連携方法については検討が必要であると考え。学生に対しても同様の対応となったが、ほとんど問題となる事例はなかった。
- ・施設と大学の連携については、実際に訪問する回数ではなく、オンライン環境などを利用して頻回な情報共有の機会を得ることが重要であるように考える。オンラインで対応する機会も増え、オンラインに慣れている状況を鑑みると、方法の一つとして取り入れていくことも必要ではないかと考える。

### <B 大学>

- ・1月中旬から全国的にコロナ感染者数が増大し、学生が実際に感染しなくとも濃厚接触者として自宅待機になる事例があった。そういった場合の対応や誰に連絡すべきかなどあらかじめ決めておく必要がある。

## 【関東地区】

- ・急速リモート実習となった場合の実習内容に施設差があった。今後は、対応について事前に意見交換を密に行い、大学からのサポートが必要なレベルと判断された場合には介入を考えていきたい。
- ・地域差や時期による違いはあると思いますが、各大学・各地域でどの程度（何%程度）一部リモート実習になったか、どのような内容の実習が多かったか、全てリモート実習という例があったか、など取りまとめて頂ければ、今後の参考になると思います。もちろん、このようなコロナ禍が収束することを強く望んでおります。
- ・コロナ等で受け入れができなくなった場合は、施設側で対応（代替施設の斡旋）をお願いしたい。
- ・実習施設で院内クラスター発生のため、実習施設の希望でリモート実習へ変更してほしいとのこと。そのため大学より学生に課題を課し、実習を継続終了した。
- ・実習施設において、医学部、看護学部など全ての病院実習の中断を決定したため、リモート実習へ変更となった。その後は原則大学より学生に課題を課し、実習を継続終了した。（5件）
- ・実習中の学生の家族が新型コロナウイルス感染症を発症し、濃厚接触者となったため自宅待機とした。その間、大学より学生に課題を課し実習を継続していたが、さらに実習施設の都合で濃厚接触解除後もリモート実習を継続し実習を終了した。
- ・実習中の学生の家族が新型コロナウイルス感染症を発症し、濃厚接触者となったため自宅待機とした。その間、大学より学生に課題を課し実習を継続し終了した。
- ・実習中の学生が、就職活動中に友人と昼食を取った。その後に友人の新型コロナウイルス陽性が判明したため、学生は濃厚接触者となり4日間の自宅待機とした。その間、大学より学生に課題を課し実習を継続し、その後臨地実習を再開し実習を終了した。
- ・同居している家族が熱発・PCR 結果（陽性）となったが、実習施設でも同時期にリモート実習に切り替えとなったため、本人が無症状であることを確認したうえで、リモート実習に参加した。

## 【北陸地区】

### A 県病院薬剤師会

#### 【工夫したこと】

- ・実習期間を8週間とし、残りの3週間は可能な限り、カリキュラムを満たすような課題を与えて対応した。(複数施設)
- ・病棟実習は「演習」の形式をとり、万が一実習生が COVID-19 に感染して、患者に移すことがないように取り計らった。
- ・このような情勢を逆手にとり、感染症に関する項目を増やした。コロナワクチンの調製、PPE の着脱の実践、COVID-19 の PCR を実際に体験すること(不可抗力でもあった)など。

#### 【問題】

- ・薬剤部の職員が COVID-19 に感染し、急遽、自宅実習(課題)の形をとった。
- ・実習生の感染の有無を確認するために PCR 検査を施行することになった。
- ・COVID-19 の状況を鑑みて、実習開始前から 11 週→8 週へ短縮して行うことを事前に計画し、大学側に周知していた。しかし、実習が始まってから短縮した 3 週間について課題という形(代替措置)をとり実習を行うように要求があった。これによる対応に追われたこと。
- ・COVID-19 の拡大状況に応じて実習を行う、という点で運営に関しては個々の病院の判断に委ねられているというのは良い点である。一方、その時々状況に応じて自施設で対応を、あーでもない、こーでもないと思わなくてはならない負担もあった。いっそ、県病薬として決定してもらった方が楽とも思いました。が、やっぱりそれは無理だなという思いもあります。次回はどうか…と。このように悶々としております。
- ・オンライン使用での遠隔実習移行に当たり、学生の理解を得るのに苦労した。
- ・病院側では判断と実行を速やかに行う必要がある。また、その際には実業務そのものが大変な状況である。事前に遠隔となった場合の連絡方法や頻度、内容を指導側と実習生とで煮詰めておくのが望ましいだろうが、実習の進捗状況により遠隔実習の内容はおのずと変えざるを得ない。
- ・大学が望む遠隔実習のあり方(連絡頻度、事例)をある程度お示しいただきたい。他県病薬で遠隔実習に係る研修会などが実施されたり論文化されたりしているが、中小で少人数を受け入れる施設とすれば、臨機応変にせざるを得ないのが現状である。(それでも教育として許容されるのであれば「問題」ではないでしょうが…)

### B 県病院薬剤師会

- ・グループ実習生に対し、遠隔実習中に複数準備したコンテンツの中から経験できなかった疾患や理解を深めたい疾患を選択して学んでもらうことが出来た。
- ・全て現場での実習であったので、病棟実習をなるべく早期から開始するスケジュールで行った。なるべく現場ならではの空気感を体験していただけるよう座学は少なくした。
- ・感染対策の徹底については、病院側も学生側も遵守することで、大きな問題は生じておりません。一方、突然のオンライン実習の可能性もありますが、準備が整っておらず、課題と感じています。

- ・感染の再流行で実地実習が困難になる可能性を考慮して、病棟実習を早期に実施した。第6波が到来した第IV期終盤には調剤を中心とした薬剤部内のみの実習とすることで、実習期間を通して対面で行うことができた。
- ・オミクロン株感染拡大の影響で、実習の継続が困難になりそうでした。
- ・感染拡大の影響で遠隔実習に変更となり、再開時期の見通が立たないため、2/7時点で一時中断。感染状況を確認しながら、再開の時期を検討した。

## A 大学

- ・学生の行動履歴、毎朝の体温等を大学にも報告させた。

## B 大学

- ・複数の病院実習予定施設より実習生受入れ延期・中止の連絡があり、各施設の状況に応じて、実習開始時期の延期、遠隔での実習など、実習時期や実施方法について協議して対応した。現在、1施設を除き今年度内に終了予定である。
- ・薬局実習中に実習施設の関係者に感染者が出たため、遠隔実習等対策を取りながら実習を継続した。当該学生は濃厚接触者としての対応は必要ないとの保健所の指示はあったが、薬局実習終了後に予定されていた病院実習受け入れ施設の意向を受けて調整し、開始時期を延期した。

## C 大学

- ・教員と施設間の連絡は訪問ではなくオンラインで行なった。
- ・実習期間中のワクチン接種について、実習施設の御配慮により実習している施設や接種場所を問わず機会を頂くことができた。
- ・実務実習が始まる2週間前から実習期間中と終了後2週間について、行動歴を含む体調管理表に毎日記入するとともに県をまたぐふるさと実習については、2週間前の移動を徹底した。

### **【東海地区】**

- ・十分なコロナ対策を実施するとともに、学生のコロナ禍での適切な行動に対する指導を実施している。問題になったことは特になし。
- ・遠隔実習となった施設があったが、最後までしっかりご指導頂いた。
- ・オミクロン株の影響で後半の3週間は病棟業務が行うことができなかった。しかし薬剤師の先生方のご尽力もあり、担当した患者を引き継いでいただき、遠隔でも事細かな情報を得ることができた。
- ・今期は感染拡大が予想されたので、実習早期から病棟での実習が行われ、柔軟な対応がされていた。最終的に後半の3週間は遠隔になったが、十分に病棟での実習ができた。
- ・今期のことではないですが、1月に東海地区の地域（市）薬剤師会の1つが実習受け入れの条件として、コロナワクチン接種を必須にするとの表明がありました。

### **【近畿地区】**

- ・第Ⅳ期はコロナ禍の状況が悪化して行きましたが、一部終盤で遠隔実習になった施設を除いては、多くの病院で感染予防行動に細心の注意を払いながら、病棟実習や他部署への見学など、通常に近い形での実習を行っていただきました。
- ・オミクロン感染拡大のため、病棟実習中止、全実習中断による自宅実習（課題対応）、リモート実習等への切り替えの影響がでた。  
薬剤部内職員のコロナ感染により、濃厚接触者ではないが、実習生も2週間の自宅待機となった。実習施設からのワクチン接種の確認と推奨により、身体的事情によりワクチン接種不可の学生の父兄から相談があった。
- ・実習後半で感染拡大の影響が大きくなった実習先があり、成果発表会の準備のご指導をリモートで行って頂いた。
- ・遠隔実習の期間が長くなり臨地実習期間が短くなった。病院の施設事情により臨地補講期間が確保できなかつた。
- ・実習施設でクラスターが発生することがあった。また、実習生が濃厚接触者となることがあった。いずれもオンライン実習により実習を継続した。
- ・学生が実習期間中の日曜日に対面での就職説明会に参加したため、大学指示で翌日の月曜日は自宅待機とした。実習施設に状況を説明し、PCR検査陰性を確認したうえで実習再開の許可を得た。

#### 【中国・四国地区】

- ・実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を実施できたこと。また、WEB会議システムを用いた大学・実習施設間の打合せや相談・面談が、対面実施と比べても遜色なく行うことができた。
- ・同居家族のコロナ感染や濃厚接触者対象による実習中断が数件、報告された。

#### 【九州・山口地区】

(大学からの報告)

- ・実習生には大学ならびに実習施設が求める感染対策を遵守して実習を進めるよう指導した。
- ・●●病院の実習では臨地実習の期間が短く、特に病棟での実習を行うのが難しかった。そのため遠隔実習用のコンテンツを活用し、学生の学修効果を高める工夫を行った。

(病院からの報告)

##### 【山口県】

- ・毎日、検温等の健康チェックを行った。
- ・実習中の病院内外での行動等について自粛を求めた。
- ・患者対応等を含む臨床実習が減少し、座学が多少増えたが、特に問題となるほどではなかつた。

##### 【福岡県】

- ・毎日、実習開始前と実習中の2点の体調チェックを行い、感染対策を徹底していたため、特に問題なく実習を遂行できた。

- ・コロナ感染症の拡大で病院内での実習が中止となったため、最後の病棟実習が途中で中止となった。そのため、その後の病棟実習については、病棟薬剤師が WEB を用いて病棟実習の対応を行った。
- ・通常通りの実習内容で行っていたが、新型コロナウイルス感染状況拡大を予想して、中頃よりスケジュールを若干変更した。なお、「まん延防止等重点措置」の発出に伴い、同期間中は当院の規定により病院内での実習が行えず、リモート等による対応となった。
- ・実習後半が感染者数の急増と重なり、実習生への対応の優先順位が下がり実習生には迷惑をかけた。今後、感染者数が急増している時期の実習についてはどのような対応をすべきか考える必要があると思った。
- ・後半 2 週間、緊急でオンラインとなったため、スケジュール作成に追われることがあった。
- ・コロナ陽性となった学生の対応、コロナ禍により他施設で実習が中止となった学生の受け入れについて、今後検討が必要と思われた。
- ・当院の面会基準に準じて、講義を中心に薬剤部内での実習と病棟活動（薬剤管理指導）を行った。実習期間残り 3 週間弱のところ、新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、当院の面会が禁止となった。同時に学生実習も中断する方針となり、残りの実習は他病院へ依頼することとなった。
- ・通年において感染対策を講じ、職員同様の認識を心掛けた。
- ・コロナ禍だからといって制限したことはありませんでした。むしろ、第 6 波が到来した時期だったので、薬剤師のコロナ対応を見せることができました。オミクロン株の特徴、コロナ治療薬の採用から投薬までの流れ、ワクチン調製作業さらに病床確保の実態など、通常では経験できないことを体験させられたことはよかったです。
- ・1 月頃より、元々の人員不足に加えてコロナの濃厚接触者などで休暇取得があり、十分に実習を行うことが困難な状況だった。
- ・今期は、学生に対する毎朝の検温と、体調異常が無いことを確認して、すべての研修を実地にて行いました。また、他部署での見学など一部を中止させて頂きました。
- ・実習前に発熱や体調不良がないか、飲酒を伴う懇親会等に参加していないか、大人数や長時間におよぶ飲食をしていないか、ワクチン接種歴などについて毎回尋ねている。共有化出来ないか。
- ・緊急事態宣言時には WEB、まん延防止時には薬剤部、通常は病棟で実習を行っているが、WEB での実習に時間を要している。e-ラーニングで講義の共有化をしてほしい。
- ・実習途中で病院内の立ち入り規制となり、急遽 Web での実習へ変更したが、毎日テーマを決め、課題に取り組むことができました。実習がある程度進んでいたため理解が深まったと思われる。ただし、当初予定したカリキュラムが大きく変わったため、学生によって“習った”“習ってない”の不平等が生じることとなった。
- ・Web で疑義照会のシミュレーションを行った。「指導者」対「学生 1 名」のやり取りを皆で聞いて、それについて皆で Discussion できるという SDG の要素もありよかった。
- ・実習期間中に発熱等があった場合、病院を受診するケースもあるため、PCR 検査を必須として良いか悩ましい。
- ・患者との接触時の標準予防策徹底、手技に合わせた P P E 着用等行った。
- ・コロナ陽性患者の入院により、病棟業務実習の制限をせざるをえない状況となった（病棟滞在時間を最小限に抑えることとした）。
- ・今年度の実習は昼食時にマスクを外すリスクを避けるため、午前又は午後に半日実習を行った。院内フェーズに従い、実習生には可能な限り体験してもらった。実習中に第 6 波となり、患者との直接面



談を中止せざるを得なかった。少ない機会ではあったが、可能な時期は患者へ直接面談を行うことができたので、良かったと思っている。

- ・感染対策の講義・実技を行ってから実習に入ってもらった。
- ・フェイスシールドの準備、白衣の交換、移動の自粛等に協力してもらった。
- ・コロナ陽性患者が増加したため、服薬指導ができる患者が少なくなった。
- ・病院がコロナ対応に追われたため、実習開始の頃は ZOOM での講義形式にさせていただきました。また、時間が余る為、課題を与えて授業を進めました。
- ・学生が出入りしていた病棟で患者のコロナ感染（オミクロン株）が発生した。発生以前より学生のフェイスシールド、マスクの着用はもちろんのこと、感染対策は十分おこなっており、濃厚接触者とはならなかった。感染収束まで学生の病棟への出入りを控えてもらった。

#### 【佐賀県】

- ・第IV期実習中に第6波がきて、最後まで実務実習は継続できたものの、病棟での実習はできずに、各病棟担当者から電子カルテを閲覧しながら業務内容を説明し、各疾患の治療を学んでもらう対応に切り替えざるを得なかった。
- ・第6波がくるまでは、薬剤部内の実習に加えて他部門の見学にも行けたが、第6波以降は薬剤部のみの実習にとどまった。

#### 【長崎県】

- ・実習開始前に全実習生へ PCR 検査を実施した。
- ・講義形式の実習は薬学部講義室を使用し、院内への立ち入りを制限した。
- ・一部実習をオンラインで実施し、グループ毎に講義を行っていたものを一回に集約した。
- ・ZOOM のブレイクアウトルームを用いて、スモールグループディスカッションを実施（災害/ICU・救急）した。
- ・実習総括などをハイブリッド形式で実施することで、業務の合間に薬剤師も実習総括に参加できるようにした。
- ・感染拡大の状況に応じスケジュール変更が必要となった。
- ・チーム医療（NST）のカンファレンス・回診見学が、感染拡大状況により、実地可能となった学生とそうでない学生に分かれてしまった。そうでない学生には、カンファレンス・回診の様子を撮影したビデオを視聴させた。

#### 【大分県】

- ・コロナワクチン2回接種が、当院として（2021年3期からの受け入れ時点）の条件である。また、学生には、ゴーグルおよび個人用の手指消毒の貸し出しを行い、実習を行ってもらった。
- ・病院の方針として、県の感染状況がステージ3になれば実習中止となっているが、それまでに既に8週間近く当院で実習をしていたこと、学生自身も県外に出ることが一切なかったことから、1日中断ただけで継続することができた。
- ・他県への移動が制限されていたため、大学側との面談を直接行う事ができなかった。

#### 【熊本県】

- ・今回は短期の研修だったため、特別工夫したことはありませんが、病院での実習においてマスク着用、ゴーグル着用としておりますが、それを学生自身に負担して頂いている状況については、今後変更になることはあるのか。負担をするのが学生でよいのかなど。

- ・新型コロナウイルス感染症に関わる体調管理表にて自己管理をしていただいているが、体調不良がある場合、実習開始前に指導薬剤師へと報告いただくよう対策をとった。
- ・実習開始当初は特に問題は無く開始し、第8週目までは、病棟に赴き患者さんとの面談や、医師・看護師との協議、回診への同行等、行うことができました。ただ、第6波の急拡大に伴い、9週目頃からは、病院より入館制限や勉強会等の延期の指示が出されました。実習継続可否については、病院に確認をとり、残り3週間程度を、薬剤部内のみでの許可を得て実習継続とし、座学での講義やカルテを通して実際の患者さんへの服薬指導の模擬、ロールプレイ、SGD等を行いました。
- ・実習施設内では、布マスクではなくサージカルマスクの着用をするよう周知した。
- ・大学で使用している保護メガネを各自持参してもらい、患者さんと接する際は必ず着用するよう義務づけた。また、学生への感染防止を第一に考え、服薬指導対象症例はルミパルス陰性かつしばらく入院されている症例とし、患者さんへの服薬指導も短時間とした。
- ・9時～16時までの短縮実習とし、院内勉強会の参加はせず、課題やレポート作成は自宅で作成してもらった。
- ・病院施設が狭いこともあり、昼休憩場所の確保が困難でした。病棟業務が十分にできませんでした。医師との病棟カンファレンスが主となりました。

#### 【宮崎県】

- ・毎朝、体温管理を行い、実習生の健康状態把握に努めた。

#### 【鹿児島県】

- ・実習中断がなく、通常の実習は特に問題はありませんでした。県下の実習生や他学部生との交流会・合同演習は対面を避け、オンラインで行いました。
- ・実習発表会は zoom を用いた Web 開催とした（薬剤職員は原則会場参加）。
- ・実習中にコロナ病床が運用されることを見越し、事前にスケジュールを検討準備した。
- ・院内の他部門見学を実施しているが、一カ所見学できない部署があった。
- ・感染状況が目まぐるしく変わり、日程調整が困難だった。
- ・実習期間半ばで「鹿児島県病床・宿泊療養施設確保計画」でのフェーズ分類における行動制限がフェーズ4となり、当院での取決めで「学生実習の受け入れは中止」となった。しかし、実習生が8/23より県外移動していないこと、連日の健康チェック等職員同様の対策を徹底していること、院内他部署では薬剤師と同行することなど、薬剤部の監督下で職員同様の行動管理とすることが可能であるとして、実習を継続することができた。
- ・実務実習中に当院職員が新型コロナウイルスに感染したものの、クラスター感染をきたしたわけではなかったため、実習はつつがなく終了した。

#### 【沖縄県】

- ・学生は、Ⅱ期は薬局、Ⅲ期は当院で実習の予定であったが、Ⅲ期は当院のコロナ感染状況により受け入れ不可となり、Ⅳ期へ延期してもらった。Ⅳ期での受け入れもギリギリまで返答ができなかったが、大学とは連絡を取りながら受け入れ不可となった場合の対応も検討しながら、受け入れに至った。
- ・実習中学生が濃厚接触者となり、10日間の自宅待機となった。待機になった当初は、大学側より学生へ課題等出してもらい、調べ学習を行った。実習後半の時期だったため、病院からは、実習まとめのスライド作成をしてもらったことと予定していた講義を遠隔で実施した。学生は、待機期間終了後、実習へ戻ることができた。

- ・コロナ禍の実習受け入れ体制や感染対策が確立したので、今回の実習に限って特別に工夫した点はございません。
- ・実習中にコロナの感染拡大があったので、実習生だけでなく同居家族にも、病院職員ならびに職員家族と同等の感染対策と行動制限を強くお願いしました。
- ・実習中に実習病棟スタッフにコロナ陽性者が発生してしまい、当院の感染管理担当者に確認しながら他の病棟で実習を行った。
- ・職員同様の感染対策を実施していただくことで、実地実習の中断は無く、これまで同様、病棟・ICU・手術室等の実習を継続しています。日々の体温測定、体調管理・報告徹底、外出自粛、手指消毒徹底、ER 等高リスクな部署での二重マスク対応・フェイスガード着用等の対応を行っています。また、第2期、第3期は実習直前に当院でのワクチン接種対応が必要となりましたが、今期は実習開始前にワクチン接種が完了しておりスムーズでした。
- ・急に院内で実習ができなくなった際の実習の対応をどうしたらいいかわからない。大学からも、何か課題を与えて、自宅学習させる対応で大丈夫と言われたが、具体的にどうすればいいか判断に困った。  
(課題は、症例について考察してもらったり、疾患から治療法、治療をする上で気を付けること、どんな介入ができるかのことを日誌に書いてもらいました)
- ・学生さんが、コンビニエンスストアでアルバイトしていた。(実習開始時から?) 年明けからは感染も拡大していたので、学生さんがコロナを持ち込んだら大変なことになっていたかもしれない。大学では禁止していたようである。機構から大学へ周知してもらうのがいいのか、各施設で対応すべきなのか? (今回は実習もリモートになったのもあり、大学側と話しをして特に問題とはしなかった)
- ・今回は、オミクロン株の感染拡大で様々な制限が行われている中で実習継続したため、これまでは行われていた手術場、検査室、放射線科、他部署での実習をさせてあげられなかった。
- ・今期は特に、食事時間の感染予防対策が厳しかったので黙食だけでなく、空間内の人数制限もあったために、ひとりぼつんと食事をとらせることもあったので、学生がもっと学びたいと思っていることを十分に聞いてあげる機会が少なかったと思います。